

K1 DIGITAL SYNTHESIZER

¥92,600 (税別)



最大16音ポリ(2 SOURCE時)、PCM+シンセウェーブによる応用性の高い音作り。そして、マルチによる鍵盤上の自由な発音設定やMIDIのマルチ音源。充実のスペックで一世を風靡した、ハイ・コストパフォーマンス・モデル、K1。

K1r DIGITAL SYNTHESIZER MODULE

¥55,500 (税別)



スタジオで、ライブステージで、絶賛されているK1のスペックをそのまま1Uラックマウントタイプに凝縮。さらに4バラアウトも装備して、自宅での多重録音やステージ上のセットアップにもジャストフィット。

K1m DIGITAL SYNTHESIZER MODULE

¥52,000 (税別)



ハイ・コストパフォーマンス・モデル、K1のスペックをそのままに、音源部を独立してコンパクトにまとめたモデル。マスターキーボードやシンセサイザーの上に置いて、スティックにより気軽にエディットできるユニークな据置型です。

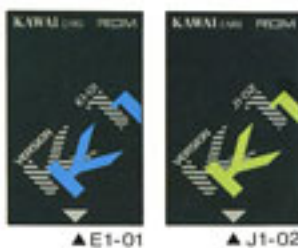
■K1II/K1/K1r/K1m仕様

※外觀及び仕様は、改良の爲予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

	K1, K1 II	K1m	K1r
鍵盤数	61	61	61
音色数	96 (54シングル/32マルチ)	96 (54シングル/32マルチ)	96 (54シングル/32マルチ)
EDIT	EDIT : VOLUME, NAME		
	COMMON : SOURCE 2/4		
	VIBRATO DEPTH, SPEED, SHAPE, PRS → DEPTH, WHEEL ASSIGN, AUTO BEND DEPTH, TIME, VEL → DEPTH, KS → TIME, PRS → FREQ, PITCH BEND, KS CURVE, POLY MODE		
	SINGLE EDIT : FREQ : COARSE (FIXED KEY), FINE, KEY TRACK, VIB/A. BEND (ON/OFF), PRS → FREQ (ON/OFF), KS → FREQ (ON/OFF)		
MULTI EDIT	EDIT : VOLUME, NAME		
	WINDOW 1 : SINGLE ASSIGN WINDOW 2 : ZONE LO-HI, VEL-SW		
	WINDOW 3 : POLY, (MODE), RCV CH WINDOW 4 : TRANSPOSE, TUNE, LEVEL, OUTPUT		
WRITE	WRITE, LINK 1ST-8TH		
SYSTEM	SYS : TUNE, TRANSPOSE, INT PROTECT, CARD PROTECT, CARD FORMAT, SAVE, LOAD		
	TRIS : CH, PGM, (PRS), (BEND), (MOD), (HOLD), DATA DUMP		
	RCV : CH, OMN, PGM, PRS, BEND, MOD, VOL, HOLD, VEL, EXCLUSIVE		
	EFF (K1m) : MODE=16, DEPTH		
STICK	STICK CONTROL (K1rを除く)		
コントロール	(PITCH BEND WHEEL), (MODULATION WHEEL), STICK (K1rを除く), VOLUME, PATCH, SELECT SW, WRITE SW, SYSTEM SW, STICK SW (K1rを除く)		
	SW (K1rを除く), POWER SW, DC IN, OUTPUT R/MONO L (K1r=MX/1.2.3.4), PHONES JACK, CARD SLOT, MIDI IN-OUT-THRU		
ディスプレイ	16×2 LCD back lit		
外形寸法	K1-K1 II=336(W)×260(D)×80(H)mm	K1m=370(W)×201(D)×58(H)mm	K1r=482(W)×242(D)×44(H)mm
重量	K1=6.8kg	K1 II=6.9kg	K1m=1.3kg
			K1r=2.8kg

■OPTION

- ハードケース KHC-100(K1 & K1 II) … ¥20,000
- ソフトケース KSC-70(K1 & K1 II) … ¥7,000
- ソフトケース QSC-40(K1m) … ¥4,000
- フットスイッチ F-1 … ¥2,000
- カード DC-8 (RAM) … ¥5,000
- カード A1-01, E1-01, J1-01, J1-02 (ROM) 各 ¥6,000



KAWAI 株式会社 河合楽器製作所

〒430 静岡県浜松市寺島町200 TEL.0534(57)1277

●このカタログは2004年現在のものです。●表示価格は消費税を抜いた標準価格です。●製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。又、印刷のため製品写真の色が若干異なる場合があります。

K1II 8904A53A



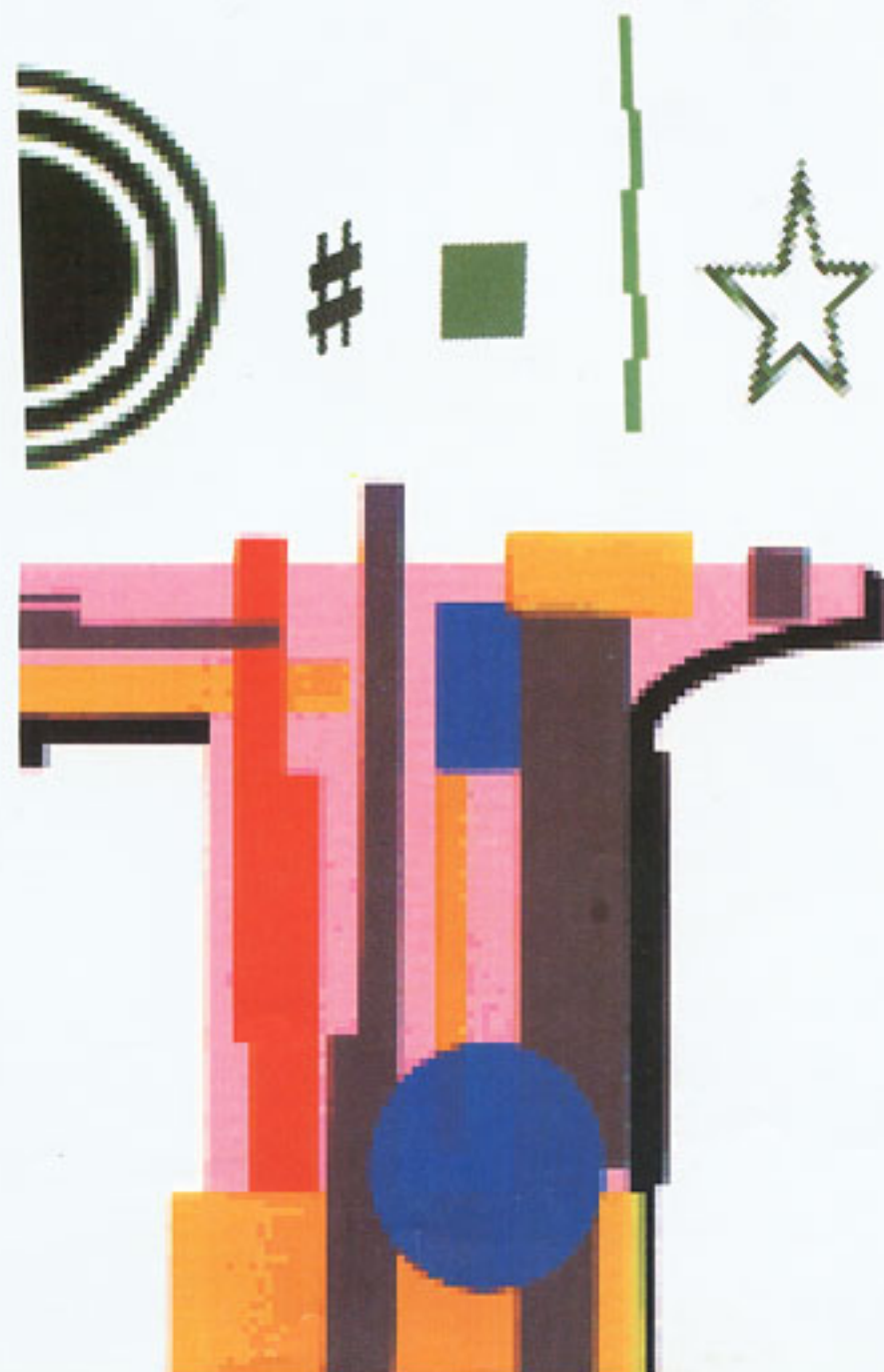
The Kawai K1 revolutionized the music world with its great sound and low price. Now the evolution of the K1: introducing the K1II, with built-in **reverb** and **enhanced drum sound** capabilities.

Revolution and Evolution.

DIGITAL MULTI SYNTHESIZER

K1 II

K1 · K1m · K1r



KAWAI

革命と進化。

●最大16音ポリ(2ソース時) ●PCM+シンセウェーブによる応用性の高い音創り。●デジタルエフェクト内蔵。リバーブタイプ、ディレイタイプにより多彩な音空間を演出。●マルチにより鍵盤上に自由に音色をアサインしたり、ドラムセクション+8セクションのマルチMIDI音源としての使用が可能。ハイコストパフォーマンスシンセサイザー。●ライト&コンパクトなボディ(本体重量6.9kg)に搭載された61鍵キーボードは抜群のレスポンスを約束。

●誕生!! K1 II

K1 IIはデジタルシンセサイザーK1をさらに進化させたモデル。K1の持つ多彩な機能はそのままにデジタルエフェクト、ドラムセクションを新たに追加。よりコストパフォーマンスの高いモデルとして新登場です。

PCMによるサンプリング波形と倍音合成によるシンセウェーブとの組み合わせによるハイブリッド音源。リアルな楽器音、ファットなイメージ音、

シャープなデジタルサウンド等、幅広いサウンドを驚くべきイージーオペレーションで得ることができます。

K1 IIに搭載された61鍵キーボードは、各鍵にウエイト(おもり)を装備。1クラス上のレスポンスを確保しました。もちろんベロシティ、チャンネルレッシュャー(アフタータッチ)装備。

K1 IIでは一つひとつの音色をシングル、いくつかのシングルを組み合わせたものをマルチと呼

んでいます。このうち、マルチでは最大8つまでのシングルをスプリット、レイヤー、ベロシティスイッチなどを使い、組み合わせることにより様々な使い方が可能です。メモリーは本体内部64シングル、32マルチ。別売カード(DC-8)を使えば計192パッチをダイレクトアクセスすることができます。また、ライブに便利なリンク機能も装備。

マルチを使えば、ドラムセクション+8セクションのマルチMIDI音源となります。ドラムの各音と各セクションは、それぞれエフェクトON/OFFができるので、より凝った音楽創りが可能です。

●ドラムセクション

K1 IIでは、専用のドラムセクションを装備。内蔵パッチとは別に用意された32音源を、鍵盤上に自由にアサイン可能(最大25鍵盤)。鍵盤でプレイしたり、シーケンサーなどを使い、外部のノート情報でパターンを走らせるなどの使い方が可能

DIGITAL MULTI SYNTHESIZER ¥105,000 (税別)

K1 II

です。このドラムセクションは、シングルモード、マルチモード、いずれのモードでも動作します。

●デジタルエフェクト

K1 IIでは、より多彩な音空間を演出するためにデジタルエフェクトを搭載。リバーブタイプ、ディレイタイプなどの計16モードのエフェクトは、教会風の美しい余韻から、ガレージ・サウンドのアグレッシブなサウンド・メイク、さらにソロに最適なロ

ングディレイなど、幅広い効果でサウンドをカラフルなものにします。

●音源

K1 IIの音源は、最大4つのソース(SOURCE)を組み合わせる音創りシステムです。その音の流れは図の通り。各々4つのソースに対して、音程(FREQUENCY)、波形(WAVE)、時間の経過による音量の変化(ENVELOPE)を各々



独立に設定して音創りを行います。各々のソースにアサインされる計256波の"波形"は、次の2種類。まず、自然音をFFT(Fast Fourier Transformation)分析し、さらに倍音合成によって再合成させることにより、オリジナルの波形をシミュレートしたものが、シンセウェーブ。このシンセウェーブは、ポピュラーなアコースティック楽器から、非現実音のシンセ・サウンドまで計204波をセレクト。そしてもうひとつが、自然音をそのままPCMにより

サンプリングしたPCM波形。様々なアタック音はもちろん、ピアノの低音部のウネリなど、贅沢に52波形用意しました。楽器音や人間の声など自然界に存在する様々な音をシミュレートするために、音の立ち上がり部分にPCM波を使ったり、同じ波形でピッチをずらして厚みのある音を創るなどの音創り方法があります。そして、ソースを2つずつ組み合わせ、1つのソースの出力でもう1つのソースを変化させることができます。倍音合

成だけでは出しにくい非整数倍音や、変調感の高い音創りが可能になります。

●マルチ

最大8つまでのシングルパッチを組み合わせたものがMULTI。このマルチパッチにより、K1 IIは様々な使い方が可能になります。まず鍵盤上で音色を区切るスプリット。K1 IIでは、最大8つの別音色スプリットが可能です。また発音域(ZONE)を重ねることにより、合成音や、より分厚いサウンドを重ねることが可能(レイヤー)。そして、鍵盤を叩く強さによって音色を切り替えるベロシティ・スイッチも装備。自然な音色変化を得るために使用すると効果的です。

K1 IIのMULTIでは、各シングルの音の出かたを設定したものをセクションと呼んでいます。このセクションのMIDI chを別々に設定すれば、外部のシーケンサーやコンピューターと組み合わせ、K1 IIをマルチMIDI音源としての使用が可能になります。ドラムセクション+8セクション

のマルチ音源として、システムの中で威力を発揮します。

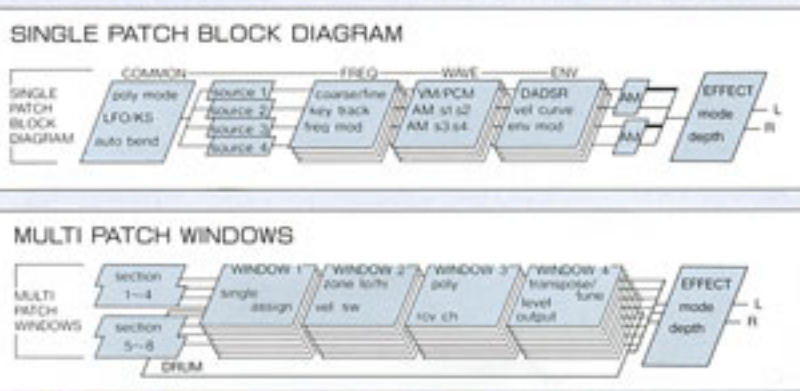
●エディット

K1 IIの音色エディットの基本は、WAVE(波形)選択。4つの波形の組み合わせにより音創りを行うK1 IIの、最も簡単かつ効果の大きいエディット法です。実際のエディットでは、各々のソースの役割を調べ(アタックの音なのか、強打時の音なのかetc...)、エディットしたい役割のソースの波形を変えるだけで、元音のキャラクターはそのままに、違ったイメージの音を創り出すことがで

きます。そして、このエディットをよりスピーディにするのが、STICKによるバリュー(値)変更。アバウトならスティック、よりシビアに決めるならカーソル、とコンビネーションによりクイック・オペレートが可能です。

●K1シリーズとの互換性

K1 IIは、K1/K1m/K1rと音色データにおける互換性を実現。E1-01、J1-02等のカード(ROM)、K1シリーズ用に創ったカード(RAM)は、K1 IIで使用可。またMIDI DATA DUMPにより、K1シリーズ内の機種間で音色データのやりとりが可能です。



●K1 IIエフェクトタイプ一覧表

モード	リバーブタイプ								ディレイタイプ							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
リバーブ	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール
ディレイ	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール	ホール

